

出ヶ原の「子育て地蔵」物語

出ヶ原は、国指定重要文化財の円満寺観音堂の所在地として有名です。元々は村の中央部にありましたが、国指定の後、昭和45年から1年かけて解体復元工事を行い伊豆原山神社の前に移築されました。移転前の観音堂の後ろには「子育て地蔵」があります。地蔵様は高さ1.5m、胴回り1.9mの自然石で、地底から出ていることから「根深地蔵」とも呼ばれ、夜泣きを静めさせる地蔵様でもあるため「夜泣き地蔵」としても親しまれています。この地蔵様には次のような話が伝わっています。

『——昔、村に子だくさんの家があったという。どの子ども泣いてばかりいる泣き虫の子ばかりで、家業の紙すき仕事思うようにできなかった。そんな中、妻は子どもらを残し、急に死んでしまった。残された夫は、多くの子どもらを抱え、嘆き悲しんだ。四十九日の法要が終わり、夫は以前から妻が信仰していた観音様（円満寺観音堂）に子どもらを連れてお詣りした。すると、今まで何もなかったところに地蔵様の形をした石がニョッキリと生えていた。これはきっと、観音様が死んだ妻の悲願を哀れと思し召されて、その念力によって地蔵様を出現させてくださったのだろうと、夫は早速、赤い頭巾とよだれ掛けを石にかけ、お詣りを欠かさなかったという。それを聞いた人たちが、泣き虫を直したいときはその地蔵様にお詣り



子育て地蔵

に来るようになったという。』

今でも赤ちゃんが生まれると、赤い頭巾とよだれ掛けを奉納し、子どもの無事や健やかな成長を祈願しています。

参考文献

『西会津ふるさとの伝説』丹藤 明



移転前の観音堂跡



お詫びと訂正

1月号11ページの3段目の文章が途中で途切れていました。続きは『活動に取り組んでいきます。』です。また、13ページの西会津応援大使の記事で、文中に『町外在住者6人』と記載しましたが、正しくは『町外在住者5人』でした。お詫びして訂正します。

今月の表紙

今月の表紙は、1月15日に行われた10町内の歳の神からよく見ると奥の方にも炎と人だかりが……。実は9町内の歳の神も近くで行っており、2つの炎が入るように撮影しました（11ページに関連記事）。

編集後記

先月号で2カ所もミスをしてしまい、編集後記のスペースがこれだけに……。これを教訓に最後まで確認作業をしっかり行いたいと思います。まだまだ詰めが甘い 長谷川祐一